

関係機関 各位

[助成先事業の成果向上と、事務の効率化・負担軽減に関する調査]報告書 刊行のご案内

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]

代表者 川北 秀人

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]¹では、今年6月から7月にかけて、NPOに対して助成・資金提供を行う助成機関にアンケートを実施し、助成事務局の事務の効率化、および負担軽減に関する現状と展望の分析を行い、その結果をまとめた報告書(冊子71ページ、頒価2,520円・税込・送料別)を2008年12月16日(火)に刊行しました。

IIHOEでは、07年「NPOへの資金提供・助成の最適化に関する調査」を実施しておりますが、この中で、多くの助成機関において、助成プログラムの担当スタッフが多岐に渡る事務(広報、申請相談、申請資料の受理・確認、審査、決定通知、助成事業の進捗管理、事業報告書のとりまとめなど)を少数のスタッフで担っている現状があり、その結果、NPOとのコミュニケーションの機会が十分に確保できてない助成機関が少なくない可能性があることがわかりました。

こうした煩雑な助成事務の負担を軽減するとともに、助成先の事業成果を向上に資する、効率的・効果的な事務のあり方について具体的な提案することをねらいとして、105の助成機関を対象に調査、48の助成機関から回答を得て、分析を実施しました。

これらの調査結果からは、各助成事務の実施において、以下の状況があることがわかりました。

■助成事務局の体制

・助成総額1000万円以下の助成プログラムの6割で、専任職員を置かず事務局を運営

■助成事務局の「現在の実施状況」ならびに「実施したい状況」

【募集時の広報方法】ウェブによる助成先募集情報の提供はほぼ定着

【広報戦略】助成総額規模の大きい助成機関で、趣旨により合致する助成策の開拓へ強い関心

【申請書類の電子化】「助成機関側で申請書類を手作業入力」「今後は電子申請を希望」がともに7割

【採点と結果の活用】審査項目に採点基準を設けているが、採点結果公表には消極的

【採択後事業の進捗管理】事務手続きの省力化が課題。一元管理システムへは4割が関心

こうした調査結果を踏まえ、本報告書では、・助成事務の効率化・負担軽減に不可欠な6つの対策と、NPOの団体情報データベースの活用、地域のNPO中間支援組織との連携など、事業成果のさらなる向上へ向けた提案をまとめています。

報告書の購入に関する情報は、専用ブログ(<http://blog.canpan.info/gate-iihoe/>)をご参照ください。

本件についてのお問い合わせ

IIHOE(担当:赤澤、北川、黒河) E-mail:gate.iihoe@gmail.com

¹ 1994年設立。NPOのマネジメント支援や情報開示の促進、企業の社会責任・社会貢献推進の支援、自治体とNPOとの協働環境づくりのための調査・研究活動などに取り組む。代表者:川北秀人 <http://blog.canpan.info/iihoe/>